

栃木からの森里川湖 プラごみゼロ宣言

プラスチックは、わたしたちの生活に利便性と恩恵をもたらしてくれる有用な物質です。しかし、一方で、海に流れ出ると、長期間、環境にとどまり生態系にも影響を及ぼします。

海洋プラスチックごみは、山から川、川から海へとつながる中で発生するものであるため、上流の栃木県においても自分の問題として考えていく必要があります。

そこで、県と市町が連携し、 unnecessary な使い捨てプラスチックの使用削減、再生材や生分解性プラスチックの利用促進、プラスチックごみのリサイクルと適正処理の徹底など、プラスチックとの上手なつきあい方を、栃木から発信し、森里川湖におけるプラスチックごみゼロに向け、行動することをここに宣言します。

令和元(2019)年8月27日



Plastics Smart

栃木県

宇都宮市

日光市

那須塩原市

益子町

野木町

足利市

小山市

さくら市

茂木町

塩谷町

栃木市

真岡市

那須烏山市

市貝町

高根沢町

佐野市

大田原市

下野市

芳賀町

那須町

鹿沼市

矢板市

上三川町

壬生町

那珂川町

栃木からの森里川湖 プラごみゼロ宣言の取組

個人・企業・団体・行政などのあらゆる主体が、それぞれの立場でできる取組を行い、プラスチックと上手に付き合っていきましょう。

県民の皆様へのお願い

- 3R(リデュース、リユース、リサイクル)のほか、プラス3Rを意識した行動をお願いします。

Rethink(リシンク): 本当に必要なものかどうかよく考える。【考える】

※ そのレジ袋、スプーンやフォークは本当に必要ですか？

Refuse(リフューズ): 不必要なものはきちんと断る。【判断する】

※ いらないモノを増やさない。

Refine(リファイン): 捨てるときには分別する。【分別する】

※ リサイクルのことを考えて手間をかける。

- とちぎの環境美化県民運動への参加

- ポイ捨てはダメ！ゼッタイ！

小売店、飲食店の皆様へのお願い

- お客様への、配布品(レジ袋やスプーン等)が必要かの声かけ

- マイバッグの推奨

企業、農業者の皆様へのお願い

- 再生材や紙、バイオプラスチック等の再生可能資源への代替促進

- 生分解性プラスチック農業用マルチの利用促進

県、市町の率先実行

- 公共調達における再生プラスチック使用品優先購入(グリーン調達)

- 庁舎内における分別回収の徹底

「プラごみゼロ宣言」採択

県と25市町事業者など取り組み提案へ

10月から
環境優しいストロー推奨



「プラごみゼロ宣言」を出した福田富一知事と25市町の首長ら＝宇都宮市昭和1丁目

レジ袋やペットボトルなどプラスチックごみを減らす機運を高めるため、県と県内すべての市町が27日、「プラごみゼロ宣言」を共同発表した。今後、県民や事業者に向けて具体的な取り組みを提案する。10月からは環境に優しいストローの普及にも動き出す。

宇都宮市の県公館で福田富一知事や25市町の首長らによる政策懇談会があり、宣言が採択された。終了後、福田知事は「栃木県から流れる水は太平洋につながる。海を守ることになると思う」と語った。

宣言では、社会問題になっている海洋プラスチックごみについて「山から川、川から海へとつながる中で発生するものであるため、上流の栃木県においても自分の問題として考えていく必要がある」と指摘。行動の目標として使い捨てプラ

スチックの使用削減、再生材や生分解性プラスチックの利用促進、プラスチックごみのリサイクルの徹底を掲げた。

県と市町は今後、小売店や飲食店に協力を呼びかける。例えば利用客に対し、レジ袋やスプーンなどが必要かどうかを尋ねるよう求めている。県によると、県内ではスーパーを中心に25事業者、計66店舗が「レジ袋有料化」に取り組んでいるが、コンビニにもレジ袋の削減に向けた協力を求めることを検討する。

また、飲食店で使われているプラスチック製のストローを減らすため、素材が水と二酸化炭素に自然分解される植物由来の「生分解性ストロー」を推奨する取り組みを10月に始める。県が市町を通じて協力店舗を募り、推奨ストローを無料配布して認知度を高める狙いがある。

小売店や飲食店を利用する県民には「新たな3R」を意識した消費行動を求める。「Rethink」（本当に必要なか考える）、「Refuse」（不必要なものは断る）、「Reduce」（捨てる時は分別する）の三つだ。

県と市町は6月、プラスチックごみの削減に向けた施策を学び合う自治体間の勉強会を始めた。この日の政策懇談会で、鹿沼市の佐藤信市長は「各事例を参考に（市町が）取り入れることが大切」。下野市の広瀬寿雄市長は「『海なし県』から取り組むことに意義がある」と述べた。

（池田拓哉）

海守る行動 栃木から

全国初、プラごみゼロ宣言

県と県内25市町共同



廃ペットボトルから作られた布に書かれた宣言文を手にする福田知事と県内25市町の首長ら。27日午後、県公館

県と県内25市町は27日、県公館で開かれた政策懇談会でプラスチックごみの削減を目指す「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」を共同で行った。県と県内全市町による共同宣言は全国初という。

プラごみは海に流出すること、海洋生物の生態系に影響を及ぼすことから、世界的にプラスチック製レジ袋の配布を抑制するなどの取り組みが行われている。

懇談会には福田富一知事や25市町の首長ら32人が出席した。「海洋プラスチックごみは山から川、川から海へとつながる中で発生するものであるため、上流の栃木県においても自分の問

題として考えていく必要がある」などとする宣言を全

会一致で決めた。

今後、個人や企業、行政などにポイ捨て禁止やマイバッグの推奨、再生可能資源への代替促進などを求めていく。首長からは「各自自治体の事例集のようなものがあれば参考にできる」などの意見が上がった。

会議終了後、廃ペットボトルからリサイクルされた

布に書かれた宣言文とともに記念撮影が行われた。福田知事は記者団に「栃木からプラごみを無くしていくことは海を守ることにつながる。県民には必要なプラスチック製品は持たないなど、上手な付き合い方をお願いしたい」と話した。

(岩崎駿祐)

●渡良瀬遊水地周辺 レンタサイクルの利用状況（平成30年度）

令和元年9月25日

ステーション	運営主体	設置 台数	H30.4月～H31.3月の利用状況(台)				料金
			利用台数	月平均	乗り捨て 台数	月平均	
①谷中湖子供広場	アクリ財団	131	7,570	630	0	0	大人4時間まで400円/1日600円 子供4時間まで200円/1日300円 定休:(月)、年末年始
②藤岡遊水池会館	アクリ財団	7	65	5	0	0	
③わたらせ自然館	板倉町	53	727	60	17	1	同上 定休:(月)、(火)、年末年始
④北川辺スポーツ遊学館	加須市	20	4時間 969	80			同上 定休:(月)、年末年始
		※大人用	1日 105	8			
		10	4時間 121	10			
		※子供用	1日 0	0			
	計	30	1,195	99	年間7台程度	-	
⑤古河市駅前 子育てひろば	古河市	7～8台	1,796	149	年間1, 2台程 度	-	定休:年末年始
⑥きらり館	野木町	6	121	10	6	0	定休:(月)、年末年始
⑦野木駅西口	野木町	7	449	37	16	1	料金：無料 シェアサイクル 定休：年末年始
⑧野木ホフマン館	野木町	14	614	51	10	0	
⑨間々田駅西口	小山市	8	475	39	42	3	
⑩小山駅西口	小山市	12	2,897	241	82	6	

相互乗捨可

相互乗捨可

※貸出場所と異なるステーションに返却されたもの

渡良瀬遊水地平面図

0 1000 2000m

●縮尺 1:30,000

『レンタサイクルの相互利用について』

